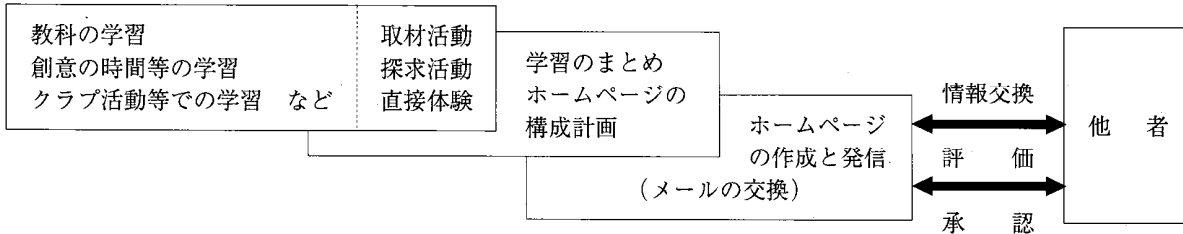


## 2 体験活動を重視して、情報発信としてのインターネットの活用

溝辺小学校のホームページを開くと、まず、パソコンクラブの学校紹介の項目が目飛び込んできた。内容を見てみると、パソコンクラブの児童が学校の紹介を行っている。どこまで子供たちで作っているかについてたずねると、計画から取材、そしてホームページづくりの一連の活動を子供たちだけでやっているとのことである。情報発信のためには直接経験等による取材活動が重要になるとともに、他者との交流の中でコミュニケーション能力の育成にもつながるということである。

【溝辺小学校におけるホームページの作成と他者との交流の図】

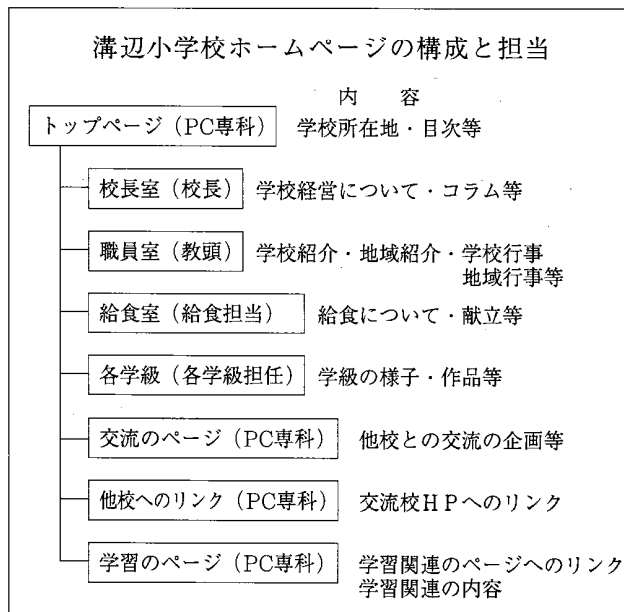


## 3 自己責任能力を高めるために、自分のことは自分で作成

インターネットのホームページの構成と役割分担は下表のようになっている。それぞれが役割を担うことで、コンピュータリテラシーを高めることになると考えている。

校長先生は、「パソコンは道具であり、目的ではない。」「各教科の基礎・基本を効果的に身に付けることができないとすれば何ら役に立たない。」と話す。そこで、教科の学習に効果のある場所を選択して活用するとともに、自ら学ぶ力の育成のために、コンピュータの操作についての指導では、できるだけ教えず、児童が発見することを基本にしている。

その結果、学習中に児童が新たな機能を発見したり、発見したことを基に児童間の交流が起きたりする。そのことは、積極的に行動する児童の育成につながったり、友達のよさを見つけることになったりして、コミュニケーション能力を高めることにつながっているという。



最後に、コンピュータ活用における問題点を聞いてみた。その答えは、ハード面の環境とソフト面の環境の充実が必要であるという。その点では、溝辺町は、コンピュータの教育利用についての理解があり、潤沢じゆんたくに使える環境にあるという。今年の夏には、これまでのシステムを残したまま、20台のインターネット接続可能なシステムが導入され、すべてのコンピュータからインターネットに接続することができるようになった。私たちが、溝辺小学校の先導的な研究に学びたいものである。